

岩石や地層から知る山の生い立ち

～ウェブサイト「地質で語る百名山」～

成果普及部門 地質調査情報部 湯浅 真人

山の生い立ちと地質図

登山家への「何故山に登るのか」という問いに対し、「そこに山があるから」という有名な答がある。私たち地質の調査を生業とするものは、「何故そこに山があるのか」を解くために調査研究を続けている。

一昨年(2001年)初め、朝日新聞社から、朝日ビジュアルシリーズとして「週刊日本百名山」という雑誌が刊行された。深田久弥氏による有名な「日本百名山」の解説・案内書で、中を見ると、四季の写真、登山道の案内、地形図、鳥瞰図、関連エッセイのほか、野鳥や草花の解説はあるものの、この山が何故ここにあるかという、地質について触れた記述はあまりない。例えば、第2号「八ヶ岳・蓼科山」では、山岳写真家三宅修氏は八ヶ岳について「地質は輝石安山岩、つまり火山噴火で生まれた山であることは間違いない。ごく古い年代なので火山地形の特徴が失われているだけだ」という記述をしているが、登山の途中で地質に絡んだ山の成り立ちに思いを馳せるというような誘いを含んだ記述ではない。山路を歩きながら、ひっそり咲く草花、野鳥のさえずりや姿に目や耳を奪われることはあっても、踏み付けた石ころや椅子代わりの岩にはなかなか目が向かないのは仕方のないことかも知れない。ましてや、その山の生い立ちを平面図や断面図で示した地質図を知る人は、専門家を除けばそう多くはいない。その原因は、私たちの普及活動の遅れにある。

百名山の地質情報をインターネットで

地質調査総合センターでは、これまで何とかして地質に関する知識および地質図を人々の間に広めていきたいと考えて広報普及活動を行ってきた。いつの日か、ドライブをする時に道路地図を用意するような感覚で山に登る時に地質図が使われるように、人々の間でポピュラーなガイドにしたい。そのためにはあらゆる機会をとらえて、人々の目が地質図に触れるようにする必要がある。鳥や草花は名前を知ることによって親しみを増す。地質に関しても、岩石に名前があることを知るところから親しんでいってもらいたい。このウェブサイトの試みは、日本百名山、あるいは個々の山岳の名前をキーワードとしてインターネット上で検索すれば、対応する地質図・地質の説明のページがヒットする、今度登る山はどのようにしてできた山なのか、どのような岩石が転がっていて、いつ頃できた山なのか、そんな知識を少しでも

目にすることができる、そんな状況をつくり出したいという狙いによる。

太平洋をめぐる地質の変動帯に位置する日本の立地条件は、百名山の中に富士山をはじめ多くの火山を登場させているが、複雑な地質を反映して石灰岩の山(伊吹山)、チャートの山(両神山)、花崗岩の山(甲斐駒ヶ岳)、蛇紋岩の山(至仏山)、堆積岩の山(北岳)等々、多彩な山々が名前を列ねている。近年、中高年者の登山がちょっとしたブームだそうで、百名山にリストアップされた山々は登山道や山小屋の整備が進んでいるという。一方で、忘れ去られたような静かな山々も数多くある。深田版百名山には火山が多いので、地質学の立場からすると、これにリストアップされていない山の中にも忘れ難い山々がある。また、肉眼で見ることにはできないが海の底にも山(海山)もあれば山脈(海嶺)もある。地質学の立場からみた名山を、百とはいわず紹介していきたいと考えている。



●地質で語る百名山のサイト
<http://www.gsj.jp/info/100mt/>
 地質で語る百名山のトップページ(上)
 甲斐駒ヶ岳を紹介したページ(右)

